令和７年度
環境都市常任委員会行政視察報告書

令和７年５月１４日（水）～ １５日（木）

富山県黒部市・富山県滑川市

視　察　報　告　書

次のとおり実施したので報告します。

1　期　　間		令和７年５月１４日（水）～　５月１５日（木）	
2　場　　所		富山県黒部市	富山県滑川市
	人口	３９，０７４人	３２，４８９人
	面積	４２７．９６平方ｷﾛﾒｰﾄﾙ	５４．６２平方ｷﾛﾒｰﾄﾙ
3　調査事項		環境都市行政について ・コンパクトシティについて	環境都市行政について ・ホタルイカを活用した観光振興について
4　視察内容 所感等		別紙のとおり	
5　視察議員 氏　　名		【委員長】山下　佳代 【委　　員】茅野　　理　　西垣　一郎　　高木　宏樹 海津にいな 【議　　長】早川　　真	
6　資　料		別添	

令和７年５月２６日

我孫子市議会議長　様

環境都市常任委員会　委員長　山下　佳代

環境都市常任委員会　行政視察報告書

(1)富山県黒部市

視察地　　令和7年5月14日（水）　富山県黒部市

出席者　　山下　佳代　委員長、茅野　理　委員、西垣　一郎　委員、
　　高木　宏樹　委員、海津　にいな　委員、早川　真　議長

随行者　　佐野　哲也　事務局長、鈴木　捷平　主任

黒部市　市制施行：平成18年3月31日
　　人　　口：39,074人、16，029世帯（令和7年3月末現在）
　　面　　積：427.96平方キロメートル
　　視察日時：令和7年5月14日(水)　13：30～15：00
　　視察場所：黒部市役所　第2委員会室

【概要】
黒部市は、富山県東部に位置します。西には日本海に面し、北から東は入善町、朝日町、長野県の県境に、南から西は魚津市、上市町、立山町に接するとともに立山連峰をはじめとする中部山岳国立公園が広がっています。三大都市圏からはほぼ300㎞と同程度の距離を有し、県都富山市からは約30㎞に位置しています。
地勢は、平坦部に比べて山岳部が比較的多く、大きな高低差のある黒部川、布施川などの河川が流れており、黒部川流域には広大な黒部川扇状地が広がっています。
名水百選に選ばれて、水の郷百選「名水の里　住みよい黒部」にも選ばれています。

【調査内容】
・コンパクトシティについて
黒部市は平成18年3月31日に黒部市と宇奈月町が合併し誕生しました。
「コンパクトかつ公共交通等のネットワークが充実したまちづくり」を目指し、平成30年3月に黒部市立地適正化計画を策定し、まちづくりの方向性を決めました。充実した公共交通網を活かすため、中心市街地への都市機能の集約化に加え、まちの魅力の創造を図ることで、まちなかに訪れる市民と公共交通利用者を増加させる取り組みを始め、民間企業の先進的な居住環境整備など

の資本投資を中心市街地に誘導することで、活力の向上と若年層を中心とした新たな定住人口を増加させ、多機能な交流施設を整備し、シニア世代との交流により次世代を担う青少年や子育て世帯等の若年層に対する支援と人材育成を図り成長を促しています。
都市計画区域は11,595 haとして、2035年（令和17年）を目標年次としています。
・居住誘導区域における居住環境、利便性の向上により一定の人口密度を確保
・都市機能誘導区域への都市施設立地誘導により利便性の高い都市構造を構築
・若年層が学び活躍できる環境を創出し、賑わいある中心市街地として再興
・多くの市民の日常を支える、快適で利便性のある公共交通機能を維持
以上を誘導施策の方向性としています。

【所感】
日本一のV字峡として知られる黒部渓谷、黒部川の源流北アルプスから富山湾にいたる、緑豊かな名水の里として有名な黒部市では、平成27年3月14日北陸新幹線開業で「黒部宇奈月温泉駅」が設置され、1日15便の停車で関東圏、長野との交流人口が増加しました。更に市内主要企業であるYKKが、本社機能を一部移転したため人事異動により総勢230人が黒部市に転居（家族含めて1,000人規模）住宅地及び単身寮が整備され、現在も計画が推進中となっています。
商業、医療、福祉、教育、行政等の都市機能が集積していて、比較的コンパクトな都市構造を形成していました。居住誘導区域への施策として、住宅取得、賃貸住宅、空家に対する手厚い支援、道路網の整備、公共交通機能の充実で人口増加と定住・移住促進を図っていました。
我孫子市は、黒部市のように広大な面積ではないので、どこを起点にコンパクトシティにしていくのかが課題だと感じました。更に企業、公共交通、自治体の財源がコンパクトシティを作るには不可欠です。
黒部市では、条件はありますが、定住・移住の住宅取得補助金に100万円の補助、空家対策として、空家解体にも力を入れていました。我孫子市もコンパクトシティを目指すうえでは課題が多くありますが、市民が住みやすいまちづくりを考えていくことが大切だと思いました。

(2)富山県滑川市

視察地　　令和7年5月15日（木）富山県滑川市

出席者　　山下　佳代　委員長、茅野　理　委員、西垣　一郎　委員、
　　高木　宏樹　委員、海津　にいな　委員、早川　真　議長

随行者　　佐野　哲也　事務局長、鈴木　捷平　主任

滑川市　市制施行：昭和29年3月1日
　　人　　口：32，489人、12，999世帯（令和7年1月1日現在）
　　面　　積：54.62平方キロメートル
　　視察日時：令和7年5月15日（木）10：00～11：30
　　視察場所：ほたるいかミュージアム

【概要】
滑川市は富山県の東部に位置する市、新川平野のほぼ中央にあたり、平野の大部分は早月川と上市川で形成された複合扇状地です。1954年（昭和29年）、市制施行しました。
古くは北陸街道の宿駅であり、江戸時代より富山の売薬の拠点の一つとして知られています。
春の風物詩として知られ、「富山湾の神秘」といわれるホタルイカの大群遊のときに見られる青緑の宝石のようで幻想的な光の帯は「海の銀河」にも例えられています。滑川市の全ての海岸線はホタルイカ群遊海面として国の特別天然記念物の指定を受けて、保存の対象とされています。
昭和初期からホタルイカ観光を始めました。昭和50年代には桟橋をつくり、現在はホタルイカ海上観光で滑川沖に設置してある定置網によるホタルイカ漁の様子を見学する観光をしています。
「すべりかわ」という誤読が多いことを逆手にとり、「すべりかわ」じゃない「なめりかわ」！、すべらない街　滑川市」という、企業からのコンペティションを経て採用したキャッチコピーを2023年2月に発表しました。

【調査内容】
・ホタルイカを活用した観光振興について
観光の振興として、滑川市は平成10年に世界で唯一のホタルイカをテーマにした施設「ほたるいかミュージアム」をオープンしました。
3月～5月は生きたホタルイカの発光を見ることができる「ライブシアター」や生きたホタルイカに触れることができる「深海不思議の泉」をはじめ、ホタルイカの生態や富山湾について学ぶことができる体験型ミュージアムとなって

います。オープン当初から平成17年までは70,000人以上をキープした入館者数でしたが、平成18年以降は減少傾向となり、50,000人前後となりました。平成27年から北陸新幹線開業の効果により増加傾向となりましたが、令和2年からの新型コロナウイルス感染症の影響から減少となりました。近年は回復傾向になっています。
更に、富山湾クルージング船の運航、ほたるいか海上観光などホタルイカを活用した観光振興は多岐に渡っています。3月1日のホタルイカ漁解禁日、ほたるいか海上観光の初日等には全国ニュース等で多く取り上げられ、旅番組、料理番組、バラエティー番組等で放送されることでPR効果となって「ほたるいかのまち滑川」のイメージが定着されてきました。
ホタルイカだけではなく、滑川市は江戸時代からの北陸街道の宿場町として栄えました。現在は古い建物を改装したカフェ、飲食店、雑貨店等がオープンしていて、「なめりかわランタンまつり」等のイベントも開催して観光客人口の増加を目指しています。

【所感】
水深200～600m辺りに生息する、体長5㎝、重さ10gほどの発光するホタルイカ。春になると産卵のために夜の海を浮上し、富山湾、とりわけ滑川周辺の沿岸にきます。発光するイカが産卵のために沿岸に集まってくる現象は、世界でもただ一か所で見られるものです。「ホタルイカ群遊海面」として国の特別天然記念物に指定されています。昭和初期から、ほたるいか観光を実施していましたが、その都度、改善しながら観光人口増加の挑戦をしていました。指定管理者は第３セクターである（株）ウエーブ滑川ですが、滑川市水産観光課も窓口となっているため、官民連携協力が観光振興を発展させるためには、大きな力になると感じました。
更に、「滑川海洋深層水取水施設」がほたるいかミュージアム運営の大きなカギとなっていました。
ホタルイカ不在期間が6月～翌2月で長いため、オフシーズンの集客やミュージアムとしての体制づくりとして、学芸員の配置など課題がありました。我孫子市には、ホタルイカのような観光資源はありませんが、「鳥の博物館」や「手賀沼」を活かした魅力ある展示や、観光人口を増やすには官民の連携体制が必要だと強く感じました。